

## 第35回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 「染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」(④無05-11-1/1)

平成23年度は「染織技術の伝統と継承—研究と保存修復の現状—」をテーマとし、無形文化遺産部の担当で文化財の保存と修復に関する国際研究集会を開催した。研究会では国内外から染織品制作の技術者、染織品修復技術者、学芸員、研究者など様々な立場の各専門家を招き、染織品を「つくる」「まもる」「つたえる」といった技術面よりアプローチすることで、今後の「染織技術」研究の道筋を示すことを目的とした。

日 程：2011（平成23）年9月3日（土）～5日（月）

会 場：東京国立博物館平成館大講堂

参加者数：404名（3日間の延べ人数）

### [基調講演]

長崎巖（共立女子大学）「染織技法の伝承—技法の変化・置き換え・相互関係—」

河上繁樹（関西学院大学）「染織史における復元的研究—江戸時代の小袖に見る染色技法を中心に—」

### [セッションⅠ] 染織技術をまもる

菊池理予（東京文化財研究所）「日本における染織技術保護の現状と課題—わざを守り伝えるために—」

韓尚洙（韓国・人間文化財）「日本の国宝天寿国繡帳」

北村武資（重要無形文化財保持者）「織物技術について、現場からの報告」

福田喜重（重要無形文化財保持者）「繊維の王、絹と共に60年—刺繍の今昔と現在の伝承と提案—」

### [セッションⅡ] 染織品保存修復のいま

梶谷宣子（メトロポリタン美術館）

「メトロポリタン美術館の染織品収蔵管理に携わって—1966年3月～2003年8月—」

ベティーナ・ニーカンブ（アベッグ財団）

「アベッグ財団における染織品の保存ワークショップ—スイスにおける染織品保存の歴史と現状—」

小林彩子（文化庁）「染織品保存修理の理念」

田中陽子（宮内庁正倉院事務所）「正倉院宝物にみる染織品の保存修復の歴史」

城山好美（株式会社松鶴堂）「染織文化財を伝える—修理の現場から—」

矢野俊昭（染技連）「『紋縮緬地熨斗文友禅振袖』修理の報告—染屋が修理を始めたら—」

岡田宣世（女子美術大学）「日本刺繍と染織品の修復」

### [セッションⅢ] 染織技術へのまなざし

シャロン・タケダ（ロサンゼルス郡立美術館）

「異文化を結ぶ技法・絞り染めの米国とその他の地域への広がり」

アンナ・ジャクソン（ヴィクトリア&アルバート美術館）

「外国へのあこがれ：ヨーロッパと日本における“エキゾチック”な染織品の受容とその影響」

小山弓弦葉（東京国立博物館）「室町時代の舞楽装束に見る染織技術」

土屋貴裕（東京国立博物館）

「絵画史研究は染織技術を明らかにすることができるか—中世職人歌合絵を起点として—」

### [セッションⅣ] 染織技術をつたえる

佐々木正直（文化庁）「無形文化財工芸技術分野における後継者育成について」

石井美恵（女子美術大学美術館）「イギリスにおける染織品保存修復士の教育」

深津裕子（女子美術大学美術館）「大学教育における染織技術の継承と保存への取り組み」

### [総合討議]